

デイキャンプ再開手順：付録 K

2020年6月12日金曜日より有効

ロサンゼルス郡公衆衛生局は、特定の企業が安全に再開するにあたり、科学と公衆衛生の専門知識に基づく段階的アプローチを試みています。以下の要件は、州公衆衛生担当官の命令により、再開を許可されたデイキャンプに特化したものです。州知事が特定の企業に課す条件に加え、これらの種類のビジネスは、デイキャンプのチェックリストに記載されている条件にも準拠する必要があります。

ビーチキャンプとサーフキャンプの許可には、このデイキャンプ再開手順に準拠し、完成した手順チェックリストを適切なビーチの管轄区域（市、郡、または州）に提出する必要があります。

注：本文書は、追加情報やリソースが入手され次第更新されることがあるため、定期的にロサンゼルス郡のウェブサイト <http://www.ph.lacounty.gov/media/Coronavirus/> をアクセスして、本文書が更新されていないかご確認ください。

本チェックリストの内容

- (1) 職場における従業員の健康を保護するための方針と実践
- (2) 物理的距離を確保するための対策
- (3) 感染管理を確保するための対策
- (4) 従業員および市民とのコミュニケーション
- (5) 重要なサービスへの平等なアクセスを確保するための対策

施設が再開手順に取り組む際、これら5つの重要点を考慮する必要があります。

本ガイダンスの対象となるすべてのデイキャンプは、以下に記載されているすべての適用可能な対策を実施し、対策がキャンプに適用されていない理由を説明する必要があります。

デイキャンプ名:

施設住所:

A. 職場における従業員の健康を保護するための方針と実践（施設に該当するものをすべて選択）

- 在宅勤務で職務を果たせる従業員には、在宅勤務が指示されている。
- 脆弱なスタッフ（65歳以上、慢性疾患のある人）には、可能な限り在宅勤務で行うことができる作業が割り当てられている。
- 従業員を在宅勤務にする機会を増やすため、可能な限り作業工程は再編成されている。変更された職務オプションを要求した勤務者、ガイド、インターン、およびボランティアスタッフに顧客や他の従業員との接触を最小限にする機会を与えることを検討する（たとえば、レジ係として働くのではなく在庫を管理や、テレワークを通じて事務の管理）。
- 物理的距離を最大化するために、代替、時間差、またはシフトのスケジュールを設定している。
- すべての従業員（有給のスタッフ、ガイド、インターン、およびボランティアを含み総称して「従業員」と呼ばれる）は病気にかかった場合、またはCOVID-19検査で陽性反応を示した場合は、出勤しないよう指示されている。従業員は、必要に応じて、自己隔離と検疫に関する公衆衛生局のガイダンスに従うことを理解している。病気で自宅にいるときは、従業員が罰せられることがないように、職場休暇ポリシーが見直され、修正されている。
- 一名以上の従業員がCOVID-19検査で陽性反応を示した、または一貫する症状を発症している報告を受けた場合、雇用主は直ちに感染者に自宅隔離を促し、その従業員に職場で曝露したすべての従業員に自己検疫を促す計画または手順を準備している。雇用主の計画では、追加のCOVID-19管理対策が必要となるような職場での曝露があったかどうかを判断するために、すべての検疫中の従業員に対してCOVID-19検査を実施する、または検査の手配をする手順を検討する。
- 従業員が職場に入る前に症状の有無を確認している。症状確認には、咳、息切れまたは発熱、およびその他の自覚症状に関する報告が含まれる。これらの確認は、従業員の出勤時に直接、又は遠隔で行う。可能であれば職場での検温も行う。
- 14日間以内に職場内で3件以上の症例が確認された場合、雇用主はこの発生を公衆衛生局、(888) 397-3993 または(213) 240-7821に報告する。
- 勤務中に一般市民または他の従業員と接触するすべての従業員に、無料で布製フェイスカバーを提供している。勤務中に他者と接触する、または接触する可能性のある従業員は 常時フェイスカバーを着用する。個人オフィスや仕切られた作業スペースで勤務する従業員は布製フェイスカバーを着用する必要はない。
- 従業員にはフェイスカバーを毎日洗濯するよう指示している。
- 従業員には頻繁に触れる物の面の取り扱いを必要とする作業や症状のスクリーニング時に使用する手袋も提供されている。
- 従業員は、デイキャンプのすべてのエリアで、訪問者とお互いの距離を少なくとも少なくとも6フィートの距離をあけるよう指示されている。従業員は、子供を支援するために、必要に応じて、またはその他の理由で必要に応じて、一時的に近づくことがある。
- トイレ、その他の共有エリアは、以下のスケジュールに従って頻繁に消毒している。
 - トイレ _____
 - その他 _____
- 従業員が利用できる消毒剤および関連用品は以下の場所に常備している。

従業員が利用できるCOVID-19に対して効果的な手指消毒液は以下の場所に常備している。

-
- 従業員は頻繁に手を洗うように注意を喚起している。
 - 各従業員に本手順のコピーを配布している。
 - 各従業員には可能な限り各自の機器を割り当て、電話、タブレット、双方向ラジオ、その他の作業用品、またはオフィス機器を可能な限り共有しないように指示されている。また、PPEも共有しないように指示されている。
 - アイテムを共有する必要がある場合、シフトまたは使用の合間、頻度がより頻繁な方で表面に適したクリーナーを使用して消毒している。これには、コピー機、ファックス、プリンター、電話、キーボードなどの共有オフィス機器、ホチキス、ステープルリムーバー、レターオープナー、レセプションエリアの表面、共有ワークステーション、オーディオ・ビデオ機器、トランシーバーなどが含まれる。
 - 従業員は、勤務中に清掃作業を実施するための時間を提供されている。清掃の割り当ては、従業員の職務の一環として、勤務時間中に割り当てられている。必要に応じて時間を変更し定期的かつ徹底的な清掃を行う。増加する清掃需要を支援するために他清掃会社を利用することもできる。
 - スタッフの欠勤を確認し、可能な場合は訓練を受けたバックアップスタッフの名簿を用意する。
 - この手順に記載されている、雇用条件に関連するもの以外のすべてのポリシーは、配達スタッフおよび第三者として敷地内にいる可能性のあるその他の会社に適用されている。
 - オプション - その他の対策の説明
-

B. 物理的距離を確保するための対策

発着

- キャンプにいる人数を、物理的距離を維持するのに適切な数に制限する。
- 輸送車両（バスなど）がキャンプで使用されている場合、ドライバーは、他のスタッフに指示されているすべての安全措置と手順（手指の衛生、布製フェイスマスク、物理的な距離など）を練習する必要がある。
- すべてのキャンパーと訪問者は、到着時と出発時に布製フェイスマスクを着用している。
- 一日の始まりと終わりの時、キャンプスタッフ、キャンパー、家族の間の接触を最小限に抑制する。
- ご家族の都合への影響を最小限に抑えるために、到着時間をずらし、時間と場所を一貫して実行できるようにする。
- できるだけ多くの入口を使用し、入口と出口のルートを指定する。他の手順を配置して、他者との直接的な接触を可能な限り制限する。
- 床や歩道にテープを貼ったり、壁に看板を貼ったりするなど、物理的な目印を提供し、キャンプスタッフとキャンパーがどのような時でも少なくとも6フィート離れていることを確認する（例：一方通行の目印）。
- 可能な場合は、運搬車両内では窓を開けて、キャンパーと運転手との間のスペースを最大にする。

レクリエーションスペース

- キャンパーは、一貫性を保ちながら、可能な限り小さく、同じスペースとグループに留まる必要がある。各グループで同じキャンパーとスタッフを維持し、同じ家族内のキャンパーは同じグループに含むようにする。参加者とスタッフの推奨比率は12 : 1。
- すべての訪問者とキャンパーは、水泳、昼寝、食事/飲酒、または一人による身体運動（自分でジョギングなど）をしているときを除き、キャンプにいる間は布製フェイスマスクを着用する。3歳未満のお子様およびマスク着用を不可能とする健康状態の方は免除される。
- 座席、机、寝具の間のスペースを最大化する。座席間の6フィートの距離、座席間のパーティション、距離を維持するための床のマーキング、対面の接触を最小限に抑えるような座席の配置など、他の方法でキャンパーを分離する方法を検討する。
- 小さなグループ向けにアクティビティを再設計し、家具と遊び場を再配置して、分離を維持することを検討する。
- スタッフは、屋内と屋外の両方の空間で、動作を最小限にし、間隔を最大化するため、お子様の発達状態に適した理解しやすい指示を開発する。
- 重要でない訪問者、ボランティア、および他のグループが同時に関与する活動を制限する。
- 実行可能な場合は共同作業を制限する。これが実用的でない場合は使用を中止し、適切に占有者の間の距離をとり、グループをできるだけ小さく一貫した状態に保ち、使用の合間に消毒する。
- 集まりや課外活動は、物理的距離を保ち、適切な手指衛生をサポートできる活動に制限する。
- 晴天の場合の屋外スペースの定期的な使用を含め、必要に応じて代替スペースを使用する。たとえば、屋外スペースを最大化する方法や、物理的距離を確保するために使用するカフェテリアやその他のスペースの使用を検討する。
- 可能な限り、集団での移動を最小限に抑制する。
- 激しい運動や歌などの呼吸飛沫が発生する活動については、個人間の距離を8フィートに増やし、これらを屋外で行う。

食事

- できる限り共同の食堂やカフェテリアではなく、キャンパーは自分の食事を持参し、食事をするときは物理的な距離をとり、少人数のグループで食事をする。食物アレルギーのある子どもの安全を確保する。
- 使い捨てのフードサービス用品（調理器具や皿など）を使用する。使い捨て用品がない場合は、使い捨てではないすべてのフードサービスアイテムは手袋をはめて扱い、食器用洗剤とお湯または食洗機で洗う。個人が手袋を外した後、または使用済みのフードサービスアイテムを直接扱った後は手を洗う必要がある。
- イベントで食事が提供される場合は、バイキング形式または食事を分け合う形式の代わりに、出席者ごとにあらかじめ包装されたボックスまたはバッグを用意する。食品や調理器具の共有を避ける。

C. 感染管理対策

- すべてのキャンプスタッフとご家族が、強化された衛生慣行、物理的距離の維持、およびそれらの重要性、適切な使用、布製フェイスマスクの取り外しと洗浄、スクリーニングの慣行、およびCOVID-19固有の除外基準を認識していることを確認する。
- COVID-19に関する懸念への対応をする責任者（キャンプの看護師や医療提供者など）を指定する。すべてのキャンプスタッフとご家族は、責任者が誰であるか、そしてその方の連絡先を知る。個人は、可能性のある曝露の記録と追跡を迅速かつ責任ある方法で地元の保健当局、職員、ご家族に通知できるようにするために訓練する必要がある。
- 地理的分布が大きい地域の場合は、地元の地理的地域に住んでいるキャンパーのみに出席を制限し、キャンプ間の移動を回避するようキャンパーに依頼することを検討する。
- スタッフと手指消毒剤を安全に使用できるキャンパーの健康的な衛生行動をサポートするために、石鹸、ティッシュ、非接触型ゴミ箱、および、エチルアルコール濃度60%以上の手指消毒剤などを含む供給を十分確保する。
- キャンパーに以下の個人保護措置を教える
 - 食事の前後、そして咳やくしゃみ、外出、トイレの使用後に定期的に手を洗う
 - 目、鼻、口に触れない
 - 咳やくしゃみを覆う
 - ティッシュで鼻を拭き、ティッシュまたは肘の内側で咳・くしゃみをする
- キャンプスタッフとキャンパーが定期的な手洗いを可能にするルーチンを検討する。
- キャンパーとスタッフは、石鹸で20秒間手を洗い、石鹸をつけてから念入りにこすり、ペーパータオル（または使い捨ての布タオル）を使用して手を完全に乾かす。
- スタッフは手洗いの手本を示し、実践する必要がある。たとえば、若いキャンパーの場合は、トイレの時間をいい機会とし、健康的な習慣を強化し、適切な手洗いを監視する。
- キャンパーとスタッフは、手洗いができない場合は手指消毒剤を使用する必要がある。消毒剤は完全に乾くまで手でこする必要がある。注：特に手が汚れている場合は、こまめな手洗いの方が手指消毒剤の使用よりも効果的です。
- 9歳未満のお子様は大人の監督の下で手指消毒剤を使用する必要がある。誤飲の場合は中毒事故管理センターに連絡する：1-800-222-1222。エチルアルコール性手指消毒剤が好ましく、お子様による監視されていない使用の可能性のある場合に使用する。イソプロピル手指消毒剤は毒性が高く、皮膚から吸収される。
- トイレでの移動と集いを可能な限り最小限にするため、施設全体で携帯型手洗いステーションを検討する。
- キャンパーは、布製フェイスマスクを使用するように奨励する。布製フェイスマスクの適切な使用、取り外し方、および洗浄についての情報は、すべてのキャンプスタッフとキャンパーに提供する。
- 飲用噴水の使用を一時停止することを検討し、代わりにして再利用可能な水用ボトルの使用を奨励する。
- ドアハンドル、ライトスイッチ、シンクハンドル、バスルームの表面、テーブルなどの頻繁に触れる物の表面、および輸送車両の表面は、少なくとも毎日、可能であれば一日を通してより頻繁に清掃する。
- 物の表面との接触を少なくし、身体活動を優先して、共有遊具の使用を制限する。
- おもちゃ、ゲーム、画材などの物や機器の共有を制限する。それ以外の場合は、使用と使用の間に清潔に消毒する。

- 洗剤を選択する時は、環境保護庁（EPA）承認リスト「N」のCOVID-19に対して使用が承認されたものを使用し、製品の指示に従う。これらの製品には、喘息をもつ人にとってより安全な成分が含まれている。
- ラベルに記載された適切な希釈率と接触時間の指示に従って、新興ウイルス病原体に対して効果的であると記された消毒剤を使用する。化学物質の危険性、製造元の指示、および安全に使用するためのCal / OSHA要件に関するトレーニングを従業員に提供する。
- 現場の清掃と消毒を担当する管理スタッフは、製品の指示に沿った手袋、眼の保護具、呼吸器の保護具、およびその他の適切な保護具を備える必要がある。すべての商品は子供の手の届かない場所に保管し、立ち入りが制限されたスペースに保管する。
- 清掃を行うときは、キャンパーが到着する前にスペースの換気をする。キャンパーが不在の場合は、徹底的な清掃を計画する。エアコンを使用する場合は、新鮮な空気を取り込む設定をする。エアフィルターとろ過システムを交換して確認し、最適な空気品質を確保する。
- 窓を開けることで安全や健康を害する場合、HVACシステムの中央空気濾過を最大化する（少なくともMERV 13のターゲットフィルター定格）など、空気の流れを改善するための代替戦略を検討する。
- 長期にわたる施設の閉鎖後、すべての給水システムと機能（飲用噴水、装飾用噴水など）が安全に使用できることを確認し、レジオネラ症などの感染のリスクを最小限に抑えるための対策を講じる。

キャンパーのスクリーニング

- スタッフのトレーニングを行い、キャンパーとそのご家族に、自宅待機やキャンプ復帰に関する規定を説明する。病気や、最近COVID-19に感染した人と濃厚接触したスタッフやキャンパーに、自粛するよう積極的に促す。
- 到着時にスタッフをスクリーニングすることに加え、すべてのキャンパーも施設到着時にスクリーニングする。
 - 到着時はすべてのキャンパーの視覚的な健康チェックを実施することを検討する。これには、毎朝始めに非間接的体温計でキャンパーの体温を測定することが含まれる。非間接的体温計が利用できない場合は、報告された体温でも可能。
 - すべての人に過去24時間以内に起こったCOVID-19の症状について質問し、自宅にいる誰かがCOVID-19の症状を示したか、または検査で陽性であったかどうかを尋ねる。
- COVID-19の症状を示しているお子様、親、介護者、またはスタッフは参加させない。
- 病気の兆候がないか、スタッフとキャンパーを1日中監視する。100.4度以上の発熱、咳、またはその他のCOVID-19症状のあるスタッフとキャンパーを帰宅させる。必要に応じて、自宅ではなく適切な医療施設に送る。

スタッフまたはキャンパーが病気になった場合

- COVID-19の症状を示す人を隔離するための隔離室または隔離エリアを特定する。（発熱、咳、息切れまたは呼吸困難、悪寒、悪寒戦慄、筋肉痛、頭痛、喉の痛み、味覚や臭いの新たな喪失）
- 2歳以上の場合、マスクの装着や取り外しに問題がなく、マスクをつけたままでも呼吸に問題が場合は、布製フェイスカバーまたはサージカルマスクを着用していることを確認する。
- 症状を示しているキャンパーまたはスタッフは、できるだけ早く自宅または医療施設に送れるようになるまで隔離室に留まる。
- 必要に応じて、病気の人を自宅または医療施設に安全に運ぶための手順を確立する。個人が胸部に持続的な痛みや圧迫感、混乱、または青みがかかった唇や顔を発症した場合は、直ちに9-1-1に電話する。

- ❑ 病気のスタッフとキャンパーは、CDCの基準に達して、自宅隔離を終えるまでキャンプに復帰しないようにアドバイスする。これには3日間発熱がなく、症状が改善し、症状が最初に現れてから10日間を含む。
- ❑ 病人との接触者には、最後の接触から14日間は自宅にいるように助言し、COVID-19の症状を監視する。詳細については、検疫に関する公衆衛生ガイダンスを参照 <http://ph.lacounty.gov/covidquarantine>
- ❑ COVID-19の陽性事例が3件以上確認された場合、州および連邦の法律で要求される機密性を維持しながら、地域の保健当局、スタッフ、およびすべての家族に直ちに通知する。
- ❑ 病人が使用した場所は閉鎖し、掃除や消毒の前には使用しないようにする。可能であれば、24時間またはできるだけ長く待ってから、エリアの清掃と消毒を行う。
- ❑ 洗浄に推奨される個人用保護具使用と換気のもと、消毒剤を安全かつ適切に塗布する。洗浄剤や消毒剤はお子様の手の届かない場所に保管する。
- ❑ 地元の公衆衛生局と協議して、適切なキャンプの役人は、特定のコミュニティ内のリスクレベルに基づき閉鎖の正当性と期間を検討することができる。

共有の制限

- ❑ 各キャンピングカーの持ち物を分け、個別にラベルが付けられた保管コンテナ、カビー、またはエリアに保管する。毎日、持ち物を自宅に持ち帰り、掃除して消毒する。
- ❑ 頻繁に触れる素材（美術用品、機器など）の共有を最小限に抑えるための十分な用品を確保するか、用品および機器の使用を一度に一つのお子様グループに制限し、使用と使用の間は清潔にして消毒する。
- ❑ 電子機器、衣服、おもちゃ、本、その他のゲームや学習補助器具をできる限り共有しない。

D. 一般市民とのコミュニケーション対策

- 機密性を維持しながら、スタッフとご家族が症状を自己報告し、曝露と閉鎖に関する迅速な通知を受け取ることができるコミュニケーションシステムを維持する。
- 本手順のコピーを、施設のすべての公共の入口に掲示している。
- インストラクターとキャンパーに身体的距離の確保と布製フェイスカバーの着用の必要性を促す看板を施設内全体に掲示している。
- 利用者が呼吸器症状で病気になった場合は自宅待機をするように指示する標識を掲示している。
- 施設のオンライン発信（ウェブサイト、ソーシャルメディアなど）では、身体的距離の確保と布製フェイスカバーの着用、およびその他に関する明確な情報を提供している。

E. 重要なサービスへの平等なアクセスを確保するための対策

- キャンパーにとって重要なサービスの安全な提供が優先されている。
- 移動が制限されている、または公共スペースにいることで病気にかかるリスクが高いキャンパーにサービスを保証する対策を講じている。

企業は 上記に含まれていない追加の対策は別紙に記載し、本文書に添付してください。

本手順に関するご質問やご意見は、以下の者までご連絡ください。

事業担当者名:

電話番号:

最終更新日:
